

リサーチの方法（3）

北海道支部副支部長・論題検討委員 岡山洋一

6. 各資料の入手方法

6-1 図書館で探す

目的の本が決まったら、所蔵図書館を調べてみましょう。インターネットで各図書館の蔵書データベースにアクセスできます。目的の本が所蔵されているのか、貸し出し可能なかが居ながらにして分かります。所蔵していることを確認してから図書館へ行くと、無駄足を踏まずにすみます。各図書館へは、「日本図書館協会の図書館リンク集 (<http://www.jla.or.jp/link/index.html>)」から行くことができます。

どこの図書館に目的の本があるのかを、それぞれの図書館の蔵書データベースで調べるのは面倒です。大学・公共図書館横断検索 (http://www.lib.hokudai.ac.jp/item/lib_links.html) を使うと、複数の図書館の蔵書データベースを同時に、横断的に調べることができます。国立情報学研究所の NACSIS Webcat 総合目録データベース WWW 検索サービス (<http://webcat.nii.ac.jp/>) も便利です。

ディベートで使う本は、専門的なものが多く、専門雑誌なども探さなければなりません。専門書などは、地域の図書館などにはあまり置いていないものです。そこでお勧めは、大学図書館です。大学は各地にありますし、今はほとんどの大学図書館が一般開放しており、だれでも図書を閲覧することができます。特に論題に関係ある分野の学部がある場合には、目的の資料がある確率もぐんと高くなります。

図書館では本を読まないで、ひたすらコピーします。ざっと目をとおしてみ、必要だと思われるところは全てコピーをとります。書籍情報が書かれてある「奥付」も必ずコピーをとみましょう。全てを、じっくり読みたいと思う本だけを借りるようにします。

雑誌記事を調べるときは、必要な記事だけを見るのではなく、前後の記事も見るようにしましょう。雑誌には特集記事などを組んでいる場合もありますので、探していた記事以

外の記事も見つかる場合があります。

近くの図書館に目的の本がない場合でも、他の地域の図書館の本を、近くの図書館を通して借りることができます。図書館の相互利用サービスです。時間はすこしかかりますが、わざわざ遠くの図書館へ行かなくても、借りることができますので便利です。

どうしても欲しい本、雑誌記事があり、近くの図書館にない場合は、国立国会図書館のコピーサービスを利用するのも良いでしょう。コピー代などは高くつきますが、目的の資料を手に入れることができます。

6-2 書店で購入する

図書館にない本、手元に置いておきたい本などは、書店で購入します。インターネットで在庫を調べることができる書店もありますので、事前に調べていけば無駄足を踏むことはありません。書店でも関係のありそうな棚を「ブラウジング」しましょう。

白書などは、政府刊行物センターで探します。思いもかけない刊行物があったりしますので、一度は政府刊行物センターに寄ってみましょう。場所は、政府刊行物センターの販売所一覧 (<http://www.gov-book.or.jp/>) から探すことができます。

高価な本や絶版本など、簡単には手に入らないものも諦める必要はありません。古本屋で購入できます。近くの古本屋に直接行ってみるのも良いですが、インターネットで古本を購入することもできます。「古本屋さんの横断検索 (<http://oudan.jcross.com/usedbkcrs/usedbkcrs0mnu.html>)」や「日本の古本屋 (<http://www.kosho.or.jp/>)」などを利用すると、全国の古本屋さんの蔵書を調べることができますので、絶版本を手に入れたり、安く購入したりすることができます。

6-3 ウェブサイトで入手する

「amazon」や「7 & Y セブンアンドロ

イ」などのウェブサイトデータベースを調べ、そのまま注文することもできます。書店に行く手間がかからず便利ですが、手にとって内容を見ることができないので、本当に必要なものだけにしておいた方が良いでしょう。

書店などでは販売されていない雑誌や専門誌なども、発行元のウェブページを探して購入することができます。機関誌などもバックナンバーを購入することができます。販売していない場合でも、記事をどうしても読みたいとお願いすると、無料で送ってくれる場合もあります。

7. インターネット上の資料の探し方

7-1 資料の信頼性

インターネットの普及により、誰でも簡単に情報発信ができるようになりました。その反面、信頼性の低い情報がネット上にはあふれています。本や雑誌などの刊行物は公になる前に、必ず何らかのチェックを受けています。しかしネット上の情報はその限りではありません。ネット上の情報は調べるのに手間がかからない反面、常に信頼性をチェックしなければならないため、調べるのが難しい情報源といえます。

ネット上の情報を調べるときには、絶対に情報を鵜呑みにしないことです。必ず疑ってかかってください。情報の信頼性をチェックするには、誰が、どのような意図でそのページを作っているのか、それがもともとどこからの情報なのか（出典）を調べましょう。そしてネット上の情報を証拠資料として使うときには、サイト名、URL、記録者、記述された日時を明確にして使用します。

7-2 検索の仕方

検索エンジンの種類、使い方、検索語の入力方法などについては、紙面の関係上ここでは説明しませんが、検索するときのコツを何点か書いてみます。検索するときのコツは、とにかく思いつく限りの検索語を入れ、絞込みをし、多くの情報に当たることです。そしてサイトをお気に入りのに入れておき、必要なのはどんどんコピーしておきます。その際には、必ず URL も一緒にコピーしておく

ことを忘れないようにしましょう。

インターネットの大きな特徴に、「リンク」があります。ウェブページには必ずと言って良いほどリンクがあります。このリンクをたどり、どんどん他の情報源へ行きましょう。また、一つの情報を探すのではなく、リンク集を探すのも良い方法です。ネット上には数々のリンク集が存在します。論題に関係あるリンク集がある場合もあります。検索するとき、「検索語」「リンク」または「リンク集」と入れ検索してみると見つけることができます。

8. インタビュー

インタビューも良いリサーチの方法です。インタビューに行くときは、必ず先方にアポイントをとってから行くようにします。事前に質問事項を渡しておく、先方も資料などを用意しやすいですので、良いでしょう。

インタビュー自体は証拠資料としての信頼性が低いので、その人の意見を聞くだけではなく、資料をもらうようにするか、資料を紹介してもらうようにします。官公庁などは独自の資料を集めている場合もありますので、包括的な資料収集も可能になります。

インタビューする人に、反対側の意見も聞いてみましょう。反対意見にどう反論したら良いかを聞くことができるかもしれません。

おわりに

リサーチなくしてディベートはありえません。効果的で効率的なリサーチが勝敗を分けます。ディベートのリサーチは、レポートや論文を書いたりするときにも役立ちますし、社会に出てからも必ず役立つ手法です。皆さんもディベートをとおして、リサーチの方法を学んでいってください。

参考文献

- 宮内泰介『自分で調べる技術』（岩波書店、2004年）
- 井上真琴『図書館に訊け！』（筑摩書房、2004年）
- 千野信浩『図書館を使い倒す！』（新潮社、2005年）